

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
日本工学院北海道専門学校		昭和56年9月25日		福井 誠		〒 059-8601 (住所) 北海道登別市札内町184-3 (電話) 0143-88-0888				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人片柳学園		昭和31年7月10日		千葉 茂		〒 144-8650 (住所) 東京都大田区西蒲田5-23-22 (電話) 03-6424-1111				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度					
文化・教養	文化・教養専門課程	CGデザイナー科	平成27(2015)年度	-	平成28(2016)年度					
学科の目的	デジタルエンターテインメント業界に対応できるデザイナーとして必要な専門知識と実践的な技術を身に付け、かつ社会人としての素養と常識を持った人材を育成すること。									
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	クリエイターに必要な基礎力と専門性を高めるカリキュラムを実施しており、作品づくりを通して技能を習得している。また業界に関連するデジタルコンテンツ、情報技術の基本的な知識と、日常生活や社会へのマルチメディアの応用について、幅広い知識を測るマルチメディア検定を受験し幅広い知識を習得する。									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技		
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		1,700 単位時間	645 単位時間	2,280 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	
				単位	単位	単位	単位	単位	単位	
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率					
40人	55人	1人		2%	2%					
就職等の状況	■卒業生数(C)		13人							
	■就職希望者数(D)		10人							
	■就職者数(E)		10人							
	■地元就職者数(F)		2人							
	■就職率(E/D)		100%							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		20%							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		77%							
	■進学者数		0人							
	■その他									
	(令和6年度卒業生に関する令和7年5月1日時点の情報)									
■主な就職先、業界等(令和6年度卒業生)		イラスト制作、CG制作、映像制作など								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL									
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.nkhs.ac.jp/dept/cg_design/">https://www.nkhs.ac.jp/dept/cg_design/</a>									
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)									
	総授業時数		1,700 単位時間							
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		60 単位時間								
うち企業等と連携した演習の授業時数		90 単位時間								
うち必修授業時数		150 単位時間								
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		60 単位時間								
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		90 単位時間								
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間								
(B: 単位数による算定)										
総単位数		単位								
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		単位								
うち企業等と連携した演習の単位数		単位								
うち必修単位数		単位								
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		単位								
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		単位								
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		単位								
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		1人							
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		1人							
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人							
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人							
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人							
	計		2人							
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		1人								

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ①コンテンツ制作を業務とする企業から連携企業を選択する。
- ②企業との連携により、アドバイスを受けながら実践的な実習・演習を構築する。
- ③制作現場から求められる専門的かつ実践的な実習・演習を行うことを目標とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学科において現在実施中の教育内容と基に次年度以降に実施するカリキュラムの予定を作成する。教務課指導により教育課程編成委員会(以下委員会)を招集し、現在または次年度以降に実施する教育内容が実践的であるか検討を行う。委員会において得られた結論は、各学科が教育内容へ適用する方法の検討を行い、最終的には授業科目の開設・授業内容の改善・最新の知識や技術の導入などを行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
佐渡 新	日本工学院北海道専門学校		—
園下 哲弘	日本工学院北海道専門学校		—
齋藤 光一	日本工学院北海道専門学校		—
平林 滋明	株式会社平林紙店	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
菊地 徹	登別市企画調整グループ	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	①

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(2月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和7年2月7日 16:30～17:30

第2回 令和7年3月19日 16:30～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

外部への公開をするうえで学生の時から著作権についての考え方を理解する必要があるという話を頂いた。プロモーション課題を作成する際に、公開することを意識して著作権の許可を取る手順も指導内容に入れた。また、人に見られることを意識した作品作りをしていくためにLive2Dのモデル作成に関して、にじコンというコンテストで公開し販売する課題にも取り組んでいる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

コンテンツ制作を行っている企業から連携企業を選択する。企業との連携により、実践的な実習・演習を構築する。学生が専門的かつ実践的な実習・演習を行うことを目標とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

学生作品の企画立案プレゼンテーション、および政策の中間発表プレゼンテーション、最終発表プレゼンテーションを行い、それぞれの作品・プレゼンテーションの評価を得る。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
3DCG演習	5. その他※具体的な連携方法を科目概要欄に記述すること。	2Dイラストから3DCGモデルを作成し、MAYAを用いた作品制作を経験する。作品について担当者の方から評価をいただきます。	株式会社アレクト
卒業制作	5. その他※具体的な連携方法を科目概要欄に記述すること。	1年間の集大成として、個人またはチームで制作活動を行い、作品を完成させます。作品について担当者の方から評価をいただきます。	株式会社アレクト

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員のスキル向上のため以下の研修を開催または、必要に応じて外部研修への参加を行う。（片柳学園職員学内研修実施取扱細則による）

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名： Unreal Engineセミナー & 交流会	連携企業等： 専門学校と経営
期間： 令和6年6月6日	対象： 高等教育機関講師
内容： Unreal Engineの最新情報・活用事例を講師向けに共有	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名： 「つながり高め合うこれからの学び」	連携企業等： 職業実践専門課程に係る教員研修会
期間： 令和6年12月19日	対象： 全道工業系専門学校の教職員
内容： 教育と広告の共通点や専門学校生の主体的な学び、地域との連携を通じたキャリア形成支援	

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名： Unreal Engine移行セミナー	連携企業等： 株式会社コンフィデンス・インターワークス
期間： 令和7年5月28日	対象： フランナー/デザイナー
内容： ゲーム開発におけるUnreal Engineへの移行について	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名： 「変化する高校生の理解と専門学校教育の展開」	連携企業等： 職業実践専門課程に係る教員研修会
期間： 令和7年8月1日	対象： 全道工業系専門学校の教職員
内容： 変化する学生の実態と雇用環境に対応するため、社会人基礎力として育成する必要性	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

- ・学校経営の改革方針や自己評価等の質を高め、次への改善につなげる
- ・学校運営や教育活動への学校関係者の協力や参画を得て、地域に開かれた信頼される学校作りをすすめる
- ・学校長は学校関係者評価の結果をもとに適切な支援や条件整備等の改善措置を講ずる

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の理念・目的・育成人材像は定められているのか。</li> <li>・学校における職業教育の特色は何か。</li> <li>・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。</li> <li>・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・学生・関係業界・保護者等に周知されているか。</li> <li>・各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか。</li> </ul>
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的等に沿った運営方針が策定されているか。</li> <li>・運営方針に沿った事業計画が策定されているか。</li> <li>・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか。また、有効に機能しているか。</li> <li>・人事、給与に関する規定等は整備されているか。</li> <li>・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか。</li> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。</li> <li>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。</li> <li>・情報システム化による業務の効率化が図られているか。</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。</li> <li>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。</li> <li>・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等と連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置付けられているか。</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか。</li> <li>・職業教育に対する実施・評価体制はあるか。</li> <li>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。</li> <li>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか。</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質行動のための取組が行われているか。</li> <li>・職員の能力開発のための研修等が行われているか。</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか。</li> <li>・資格取得の向上が図られているか。</li> <li>・退学率の向上が図られているか。</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動への改善に活用されているか。</li> </ul>

(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか。</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか。</li> <li>・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか。</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか。</li> <li>・学生の生活環境への支援は行われているか。</li> <li>・保護者と適切に連携しているか。</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか。</li> <li>・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。</li> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか。</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか。</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みが行われているか。</li> <li>・学生募集活動は、適性に行われているか。</li> <li>・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。</li> <li>・学生納付金は妥当なものとなっているか。</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか。</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか。</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか。</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。</li> <li>・自己評価結果を公表しているか。</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)受託等を積極的に実施しているか。</li> </ul>
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか。</li> <li>・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等が取られているか。</li> <li>・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。</li> <li>・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか。</li> </ul>

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

・休退学への取組の検討

① 学生と面談を行い、学生と教員の考えを共有することで信頼関係を築き、相談しやすく休退学に向かないための仕組みづくり

② 欠席連絡を担当に直接行う仕組みづくり(電話対応の練習も兼ねる)、連絡がない場合は担任とクラスメイトから連絡を行い、孤独ではなく頼れる仲間や上司がいることを実感させる仕組み

## (4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
菅田 浩之	登別教育委員会	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	地方公務員
伊藤 義幸	社会福祉法人 ホープ フロンティア	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	卒業生校友会会長
川田 弘教	川田自動車工業株式会社	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
藤江 紀彦	登別市社会福祉協議会	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
吉田 武史	有限会社貴泉堂	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	卒業生
黒田 友美	学生の保護者	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	PTA
平林 滋明	株式会社平林紙店	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
菊地 徹	登別市企画調整グループ	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	地方公務員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

## (5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: <http://www.nkhs.ac.jp/news/public/publicindex.html>

公表時期: 令和7年10月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

## (1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

・専修学校における情報提供等への取組に関するガイドラインを基本方針とし、企業等が本校に関して理解を深め、連携・協力できるよう、提示することが適当でないものを除き、積極的に情報を提示している。

## (2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の精神、教育方針、教育目的(学生便覧)</li> <li>・所在地、連絡先(HP)</li> <li>・学校の沿革、歴史(学生便覧)</li> </ul>
(2) 各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者に関する受入方針(HP)</li> <li>・収容定員(HP)</li> <li>・科目配当表・科目編成・授業時数(HP)</li> <li>・年間の授業計画(HP)</li> <li>・学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等(HP)</li> <li>・資格取得、検定試験合格者等の実績(HP)</li> <li>・卒業後の進路・進学者数・進学先、就職者数・主な就職先(HP)</li> </ul>
(3) 教職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の組織(H28組織図)</li> </ul>
(4) キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育への取組状況(HP)</li> <li>・実習・実技等の取組状況(HP)</li> <li>・就職支援等への取組状況(HP)</li> </ul>
(5) 様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事への取組状況(HP)</li> <li>・課外活動・部活動(HP)</li> <li>・カウンセリングルームなど(学生便覧)</li> </ul>
(6) 学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生支援への取組状況</li> </ul>
(7) 学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生納付金の取扱金額、納入時期等(HP)</li> <li>・活用できる経済支援措置の内容等(HP)</li> </ul>
(8) 学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本工学院北海道専門学校の財務情報(北海道校の財務情報)</li> <li>・自己点検自己評価(自己評価(大項目 財務))</li> <li>・項目別の自己評価表(自己評価(項目別 財務))</li> </ul>



## 授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 CGデザイナー科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		色彩基礎	色彩の基本を学び、色が持つ与える印象や組み合わせによる表現の幅を理解します。	1・前	30	2	○			○			○	
2	○		PS・AI基礎	AdobePhotoshop・Illustratorの基本操作を学びます。	1・前	60	4	○			○		○		
3	○		イラスト基礎	イラスト制作のワークフロー、ペイントソフトの基本操作や作業効率を上げるテクニックを学びます。	1・前	60	4	○			○			○	
4	○		3DCG基礎	Autodesk Mayaの基本操作を学び3DCGの概念を理解します。	1・前	60	4	○			○		○	○	
5	○		グラフィックデザイン基礎	グラフィックデザインの基本を学び、アドタイピングデザインの概念を理解します。	1・前	60	4	○			○			○	
6		○	作品鑑賞	代表的な作品の鑑賞を通して、それぞれの作品が持つ魅力を分析し、感受性や創造性を磨きます。	1・前	30	2	○			○		○		
7		○	映像表現	映像表現の手法について学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
8		○	キャリアデザイン1	クリエイター系職種での就職活動を前提としたポートフォリオの構成、内容を学び、ポートフォリオを作成します。	1・後	30	2	○			○		○		
9		○	キャリアデザイン2	クリエイター系職種での就職活動を前提としたポートフォリオの構成、内容を学び、ポートフォリオを作成します。	1・後	30	2	○			○		○		
10		○	ビジネススキル	社会人として必要なビジネスマナーを習得します。	1・後	30	2	○			○			○	
11		○	ライセンス対策	マルチメディア検定ベーシックの内容を中心に、理論と仕組みを学びます。また、検定の取得も目指します。	1・後	30	2	○			○		○		
12	○		造形基礎	造形の基本から、立体把握・空間認識能力を養います。	1・前	30	1		○		○			○	

## 授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 CGデザイナー科)																	
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
13	○			クロッキー・デッサン1	クロッキー・デッサンなどの美術における基礎を中心に、観察力・表現力の向上をめざします。	1・前	90	3		○		○				○	
14			○	クロッキー・デッサン2	クロッキー・デッサンを中心に、より難易度の高い課題に取り組み、高い観察力・表現力の向上をめざします。	1・後	90	3		○		○				○	
15			○	イラスト演習1	それぞれの専攻に応じたスキルを作品制作を通じて習得します。	1・後	60	2		○		○				○	
16			○	イラスト演習2	それぞれの専攻に応じたスキルを作品制作を通じて習得します。	1・後	60	2		○		○				○	
17			○	3DCG演習1	それぞれの専攻に応じたスキルを作品制作を通じて習得します。	1・後	60	2		○		○			○		
18			○	3DCG演習2	それぞれの専攻に応じたスキルを作品制作を通じて習得します。	1・後	60	2		○		○			○		
19			○	グラフィックデザイン演習1	それぞれの専攻に応じたスキルを作品制作を通じて習得します。	1・後	60	2		○		○				○	
20			○	グラフィックデザイン演習2	それぞれの専攻に応じたスキルを作品制作を通じて習得します。	1・後	60	2		○		○				○	
21	○			プランニング&コンテンツ1	作品制作におけるワークフローの理解と、企画やスケジュールなどの重要性を学びます。	1・前	30	2	○			○			○		
22	○			プランニング&コンテンツ2	作品制作におけるワークフローの理解と、企画やスケジュールなどの重要性を学びます。	1・後	60	4	○			○			○		
23	○			グループワーク1	グループ制作による、プロジェクトのマネジメントやコミュニケーションを学びます。	1・後	30	1		○		○			○		
24			○	プロジェクト演習1	タイムリーな制作内容や課題に取り組み、それに応じたスキルを習得します。	1・前	0	1		○		○			○		

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 CGデザイナー科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
			○	プロジェクト演習2	タイムリーな制作内容や課題に取り組み、それに適したスキルを習得します。	1・後	30	1		○		○	○			
	○			修了制作	1年次の集大成となる作品制作を行います。	1・後	90	3		○		○	○			
			○	企業フォーカス	業界で活躍するゲストを招き、クリエイティブ業界で求められる姿勢やスキルを学びます。	1・前	15	1	○			○	○			
			○	インターンシップ1	職場での実務を通して専門的な知識を学びます。	1・後	60	2				○	○			
			○	キャリアデザイン3	企業向けのポートフォリオ展示会に向け、リサーチや名刺作成などの仕方を学び実践します。	2・前	60	2				○	○			
			○	クロッキー・デッサン3	より高度なクロッキーやデッサンへ取り組み、高い観察力と表現力を身に着けます。	2・前	60	2				○				○
			○	イラスト演習3	それぞれの専攻に応じた、より高度な制作内容を学びます。また、コンテストでの入賞を目指して応募を目標とします。	2・前	90	3				○				○
			○	イラスト演習4	それぞれの専攻に応じた、より高度な制作内容を学びます。また、コンテストでの入賞を目指して応募を目標とします。	2・前	60	2				○				○
			○	3DCG演習3	それぞれの専攻に応じた、より高度な制作内容を学びます。また、コンテストでの入賞を目指して応募を目標とします。	2・前	90	3				○				○
			○	3DCG演習4	それぞれの専攻に応じた、より高度な制作内容を学びます。また、コンテストでの入賞を目指して応募を目標とします。	2・前	60	2				○				○
			○	グラフィックデザイン演習3	それぞれの専攻に応じた、より高度な制作内容を学びます。また、コンテストでの入賞を目指して応募を目標とします。	2・前	90	3				○				○
			○	グラフィックデザイン演習4	それぞれの専攻に応じた、より高度な制作内容を学びます。また、コンテストでの入賞を目指して応募を目標とします。	2・前	60	2				○				○

## 授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 CGデザイナー科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
37	○			グループワーク2	グループ制作による、プロジェクトのマネジメントやコミュニケーションを学びます。	2・前	90	3		○		○		○		
38	○			卒業制作企画	卒業制作へ向けた企画立案やスケジュール作成を行い、プレゼンテーションを行います。	2・前	90	6	○			○		○		
39	○			卒業制作1	卒業制作展へ向けた作品制作を行います。	2・後	90	3		○		○		○		
40	○			卒業制作2	卒業制作展へ向けた作品制作を行います。	2・後	90	3		○		○		○		
41			○	イベントプランニング	研修旅行や学校祭の計画を立て、実際に実施しその報告をします。	2・後	30	1		○		○		○		
42			○	インターンシップ2	職場での実務を通して専門的な知識を学びます。	2・後	60	2		○		○		○		
43			○	卒業制作3	卒業制作展へ向けた作品制作を行います。	2・後	90	3		○		○		○		
44			○	卒業制作4	卒業制作展へ向けた作品制作を行います。	2・後	90	3		○		○		○		○
45			○	インターンシップ3	企業での実務を通して専門的な知識を学びます。	2・後	90	3		○			○	○		
46			○	職場見学	実務を行う職場での仕事内容について学びます。	2・後	90	3		○			○	○		
47			○	Office演習1	文書作成や表計算ソフトなど、Microsoft Officeの操作を中心に学びます。	2・後	45	1.5		○		○		○		
48			○	Office演習2	文書作成や表計算ソフトなど、Microsoft Officeの操作を中心に学びます。	2・後	45	1.5		○		○		○		

## 授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 CGデザイナー科)															
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
49		○	就職対策 1	就職に必要な心得、ビジネスマナーや面接対策、SPI対策を行います。	2・後	45	1.5	○			○		○		
50		○	就職対策 2	就職に必要な心得、ビジネスマナーや面接対策、SPI対策を行います。	2・後	45	1.5	○			○		○		
合計						50 科目		2925 単位 (単位時間)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
70.5単位以上、1,700時間以上 卒業要件： ※専攻別科目から9単位以上取得すること ※実務科目から4.5単位以上取得すること	1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 講義・演習による	1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。